

指定討論3 教育哲学の立場から

「教える」専門家としての教師の「専門性」とは何か

—傾向性・Reflection・Negative Capability—

生田久美子

（田園調布学園大学）

自己紹介

【経歴】

- ・ 東北大学大学院教育学研究科
- ・ 田園調布学園大学 子ども未来学部
- ・ 田園調布学園大学大学院 人間学研究科
子ども人間学専攻

【専門】

- ・ 教育哲学、認知教育学（人間の「知」の探求）

内容

1. 教育哲学からの問い
2. 傾向性 (disposition)としての「専門性」
3. 省察力(reflection)としての「専門性」
4. Negative Capabilityとしての「専門性」
5. おわりに—教師の「専門性」を問う視座

1. 教育哲学からの問い

○グラウンドデザインにおける基本的な考え方

「これからの教師像」

= 「自律的でクリエイティブな**高度専門職**」

= 「学びと成長の**専門家**」

= 「自ら学び考える教師」



「教える」と「学び」「成長」の関係を踏まえ、
教師の「専門性」をどのようにとらえるか？

2. 傾向性 (disposition)としての「専門性」

○ライル(Ryle, G.) (1987)のKnowing how理論

「知性 (Intellect)」 = Knowing that、命題的な知

「理知性 (Intelligence)」 = Knowing how、身体的な知



Knowing howとしての「技能」

「技能そのものは行為ではない。すなわち、それは
目撃可能な行為ではない」 = **単純な「行動主義」の否定**

「神秘的な、あるいは幽霊的な出来事」ではない

「まったく出来事といわれる種類のもの」ではない

(ライル1987 p.35)

ライルの「傾向性 (disposition)」

傾向性：

「ある特定の条件が実現された場合にはある特定の状態にならざるをえない」 という人間の性向

(前掲書 p.50)

→人間のある種の「できる」という能力と同一視できない、
無限に多様な表れ方をする高次の傾向性(multiple-track disposition)

※反射行為や習慣のような単一的な傾向性(single-track disposition)とは異なる (例. 食後にタバコが吸いたくなる⁶)

3. 省察力(reflection)としての「専門性」

○シヨーン(Schön, D.A.)の

「knowing in action(行為の中の知)」

専門家のもつ専門性

理論か実践かという二元論的な議論に依拠する

「技術的合理性(technical rationality)」ではない。



「実践に埋め込まれた理論」 = 「実践の認識論」

= 「行為の中の省察 (reflection in action) 」

「行為についての省察 (reflection on action) 」

ライルとショーンの議論の重なり①

○「行為についての省察」

：自分の実践を事後的に省みて、分析、吟味、探究する
省察活動

= ライルの示す **Task** という位相の「専門性」

○「行為の中の省察」：自らが到達した傾向性あるいは「ある種の状態」についての語り

= ライルの示す **Achievement** という位相の「専門性」

= 「傾向性」という概念で説明可能な「ある種の状態」

例：野球選手の「はまり所をみつけた」 (ショーン2007 pp.87-88)

ライルとショーンの議論の重なり②

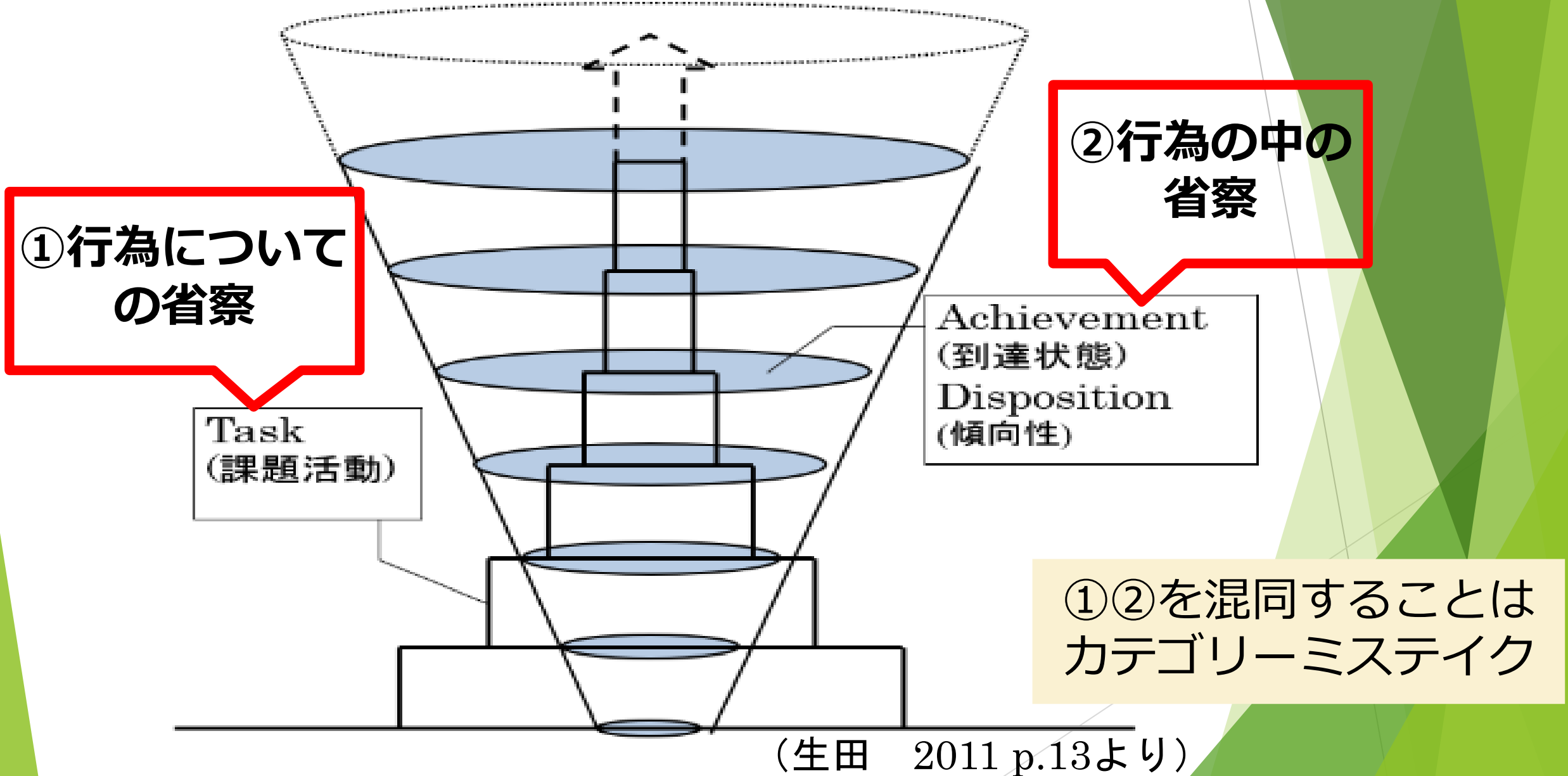
「私が行なっていることについて考える」ということは、「私は唯一のことしているのであってけっして二つのことをしているわけではない」(ライル1987 p.33)

→「行為」と「知」は異なる二つの事柄を意味しているのではなく、まさに「行為の中の省察」はそうした2つの事態を含みこむ状態を意味している。

例：「即興」「暗黙知」

「状態」であると同時に、そうした状態に至るためにはどうすべきか様々に探究する(inquiry)という、状態とは異なる活動(activity)が含意されている

【図 I】



4. Negative Capabilityとしての「専門性」

○ジョン・キーツ(Keats, J.)のNegative Capability 「Negative Capability」

=偉大な仕事を達成する人間【the Man of Achievement】
を形成している特質

=人が不確実さとか不可解さとか疑惑の中にあっても、事
実や理由を求めていらいらすることが少しもなくていら
れる状態 (キーツ2004 p.53)

「共感的理解」の可能性としてのNegative Capability

→ 詩人というものは**個性【identity】をもたない**……

詩人は絶えず他の存在の中に入ってそれを充たしている

(前掲書p.124)

→ 「個性を持たないこと」

= 「動物であれ現象であれ、**対象への共感的な自我を通して、想像力によって直ちにそして直感的に達せられる**」

(Bate 2017 p.32 生田訳)



自らの個性を消滅して他の存在に入り込むことにより
可能となる「**共感的理解**」の可能性

◎ 個性性を消滅して他の存在の中に入り込むことにより可能になる「共感的理解」



「ネガティブ・ケイパビリティの有益さは、文学・芸術の領域を超えて、精神医学の分野にも拡大」

「ネガティブ・ケイパビリティを保持しつつ、治療者と患者との出会いを支え続けることによって、人と人との素朴な交流が生じる」(帚木2017 p.38)

教育領域におけるNegative Capabilityへの注目

○「何ものでもなくいられる力」としての

Negative Capability

= (鳥山敏子の学校での実践事例について) 「このような経験は、自意識や自己概念によって把握されている「自分」を超える体験」(鈴木 2009 p.22)である。

→Positive Capability では把握されない事態の教育的意義

○「教養」としてのNegative Capability

「'negative capability'と'positive capability'の両方を合わせたものを「21世紀における教養」と呼びたい。」(金子 2012 p.78)

5. おわりに—教師の「専門性」を問う視座

「専門性」概念：

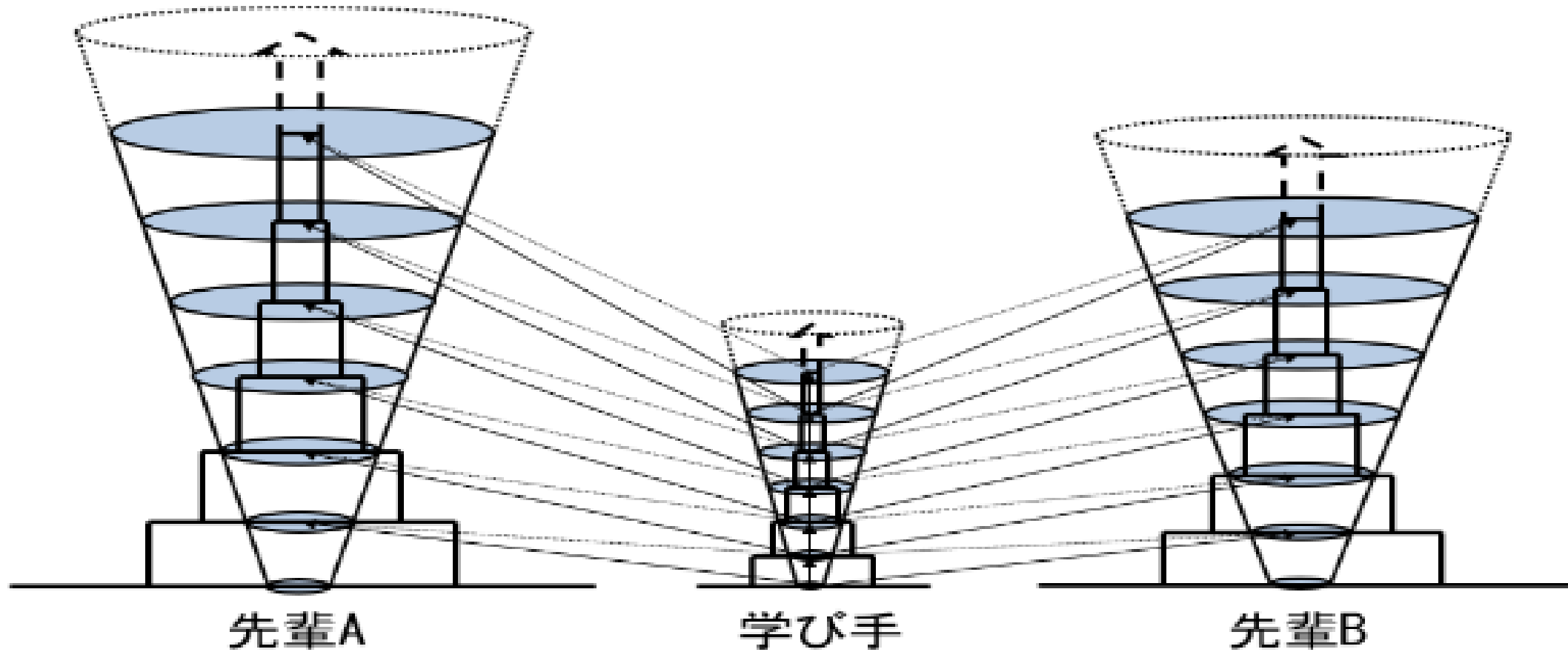
= 他者との感覚の共有や共感といった非認知的な要素。
(キーツのNegative Capability)

「専門性」の育成・継承：

= 同一の実践共同体の中で師や先輩たちが示す多様な現れをする傾向性に直接接触れることを通して、**自己を消滅させた状態で、他者(師や先輩たち)の中に入り込み、**やがて「専門性」(教師の「わざ」)を己のものとしていく事態

【図Ⅱ】

実践共同体



(生田2015より)

【引用・参考文献】

Bate, W.J.(1939)Negative Capability : The Intuitive Approach in Keats Cambridge Harvard University

Dewey, J.(2003) 『経験としての芸術』 河村望訳 人間の科学新社
[“Art as Experience” Capricorn Books 1958(1934)]

帚木蓬生 (2017) 『ネガティブ・ケイパビリティ：答えの出ない事態に耐える力』 朝日新聞出版

生田久美子 (2011 (1987)) 『「わざ」から知る』 (認知科学選書一四) 東京大学出版会

生田久美子(2003) 「職人の「わざ」の伝承過程における「教える」と「学ぶ」」 『実践のエスノグラフィー』 金子書房 pp.230-245

生田久美子(2004) 「「知識」と「わざ」の教師学」 『教師学研究』 第5・6合併号 日本教師学学会 pp.24-34

生田久美子(2006)「〈再考〉教育における「技能」概念－「傾向性 (disposition)」としての「わざ」概念に注目して」『教育を問う教育学』田中克佳(編)慶應義塾大学出版会pp.11-31

生田久美子(2011)『わざ言語－感覚の共有を通しての「学び」へ』生田久美子・北村勝朗 編著 慶應義塾大学出版会

生田久美子(2015) 福岡県立大学大学院FDセミナー資料

生田久美子(2019)「専門家の「わざ」とは何か－傾向性 (disposition) からNegative Capabilityへ－」姫野完治・生田孝至編著『教師のわざを科学する』一莖書房 pp.245-255

金子章予 (2012)「「学士」という学位をもつことの意味 (米国の「学士力」からの示唆)」『リメディアル教育研究』 第7巻第1号 pp.68-84

Keats, J. (2004(1977))『詩人の手紙』(田村英之助訳)富山房百科文庫

Li, Ou. (2009) Keats and Negative Capability Continuum International publishing Group

西岡常一他 (1986) 『木のこころ 仏のこころ』 春秋社

Ryle, G. (1987) 『心の概念』 坂本百大他 訳みすず書房 [The Concept of Mind Hutchinson 1949]

Schön, D. (2007) 『専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える』 佐藤・秋田訳 ゆみる書房 [The Reflective Practitioner: How Professional Think in Action Basic Books 1983]

鈴木忠 (2009) 「自己を超える/現実を超える：アイデンティティ概念再考」 『生涯発達心理学研究』 第1号 pp.19-30

※ 本スライドは、2018年度認知科学会シンポジウムの報告「専門家の「わざ」とは何か—傾向性 (disposition) からNegative Capabilityへ—」を一部修正・加筆したものである。